

東西頂上対決!

歌丸 春団治

がつぽろ四つ

桂 歌丸
桂 春団治



桂 春之輔
桂 花丸
内海英華

*
解説: 相羽秋夫

*

お囃子: なにわの会

2006

6/9[金]

18:30開演 (18:00開場)

茨木市市民総合センター

クリエイター・センターホール

茨木市駅前四丁目6番16号 / 072-624-1726

全席指定席

1階席=3,000円 / 2階席=2,500円

* 65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者の方は500円引き

* 就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

3月14日(火)発売

◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055

(クリエイター・センター1階、月～金、8:45～17:15、土・日・祝日休業)

* 茨木市文化振興財団は4月1日から茨木市市民会館へ移転します。

◆その他の販売所

JA茨木市各店舗 072-627-7762(本所総務課)

フミレコード阪急茨木市駅前店 072-626-3723

朝日野村北摂販売株 072-643-8424

チケットぴあ 0570-02-9999

チケットぴあPコード予約 0570-02-9966(Pコード 367-289)

ローソンチケット 0570-000-777

ローソンチケットLコード予約 0570-084-005(Lコード 56137)

* ぴあ、ローソンでは割引の取扱いはありません。

◆主催: (財)茨木市文化振興財団 ◆制作: 三栄企画 ◆構成: 相羽秋夫

東の歌丸、西の春団治

当財団では、これまでも東西の落語家を招いて、落語の魅力が倍加する企画を開いてきました。

そして今回、その中でも極め付きのビッグな顔ぶれで、お届けすることになりました。

「東の頂上対決!」なのです。

落語には、東京落語と上方落語の二つの大きな流れがあることは、もうご存知でしょうが、上方落語は目に触れることが多いのですが、東京落語に接することは、関西に住むわれわれにとって、あまり機会が多くありません。まして、テレビでもおなじみの人気落語家になると、そのチャンスはゼロに近いものがあります。

それが、夢のような企画が実現したのです。

まず、遠来の客、**桂歌丸**のご紹介です。

「ご存知「笑点」のレギュラー出演者で、円楽が病氣静養中の間、大喜利の司会をつとめるなど、この番組の顔としてがんばっています。」

さらには、東京には、「落語協会」「落語芸術協会」「円楽一門会」「落語立川流」の四つの組織がありますが、このうち「落語芸術協会」の会長として頂点に立っている存在なのです。

東京で、いや日本で、いかにビッグな落語家であるかが、この二つの説明で理解していただけるでしょう。

その歌丸、一九三六（昭和十一年）年、横浜市の生まれです。今年八月で古希を迎えます。

五十一年にまだ中学生の身で五代目古今亭今輔に入門して、翌年デビューした、芸歴四十四年のベテランなのです。

途中、師匠今輔の死後、その今輔の弟子である桂米丸つまり兄弟子の門下になって現在名となりました。

本来、この協会は新作派が多いのですが、歌丸は古典に情熱をそそぎ、珍しい演目に挑戦する芸熱心な落語家として、つとに知られています。

一方迎える西の**桂春団治**のご紹介です。

当代で三代目を迎えますが、春団治という名前は、上方

落語のシンボリック存在です。

「花は桜木 山は富士 噺家ならば春団治…」と言われるぐらい、落語を知らない人でも知っている名前です。

この春団治も、上方落語協会会長として永い間、協会を引っばってきた人です。

その意味でも、頂上対決は東西落語協会長の対決でもあるのです。

一九三〇（昭和五）年、大阪市の生まれです。二代目春団治の実子で、「門前の小僧頭おねね経を読む」の諺どおり、小さい頃から落語を子守唄がわりにして育ちました。

しかし、落語家になるつもりはなかったのですが、父の巡業に付いて行ったのが縁で高座に立ったのがこの道に入るきっかけでした。

四七年に父に入門となつていたので、六十年のキャリアを誇っています。

精確無比な芸風は、初代とは全く異なる芸風ですが、今や上方落語の教科書的存在として、多くの若手の目標になっています。

古典一筋に芸道を歩んでいる姿も、まわりに尊敬の念を抱かせている大きな要因です。

この二人を盛り上げる人たちをご案内します。

まず**桂春之輔**は、春団治の二番弟子で、上方落語協会の副会長として、九月新装の寄席「天満天神繁昌亭」のために力を入れる熱血漢です。

桂花丸は、歌丸の弟子で、岩手県から東京に出てこの世界に入りました。入門八年目、いよいよ脂がのつてきました。東京落語の若い演じ手にも「声援下さい」。

紅一点、会に華を添える**内海英華**の芸は、「女道楽」と言つて、歌つて演奏して踊つてという芸達者な腕の冴えが光ります。

と、絶対ご満足のいく顔ぶれです。どうか胸躍らせて客席に身を沈めて下さい。

（敬称略）



相羽秋夫

（演芸評論家
大阪芸術大学教授）

◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055(月～金、8:45～17:15、土・日・祝日休業)

* 発売初日から電話予約もお受けしますが席はお任せいただきます。

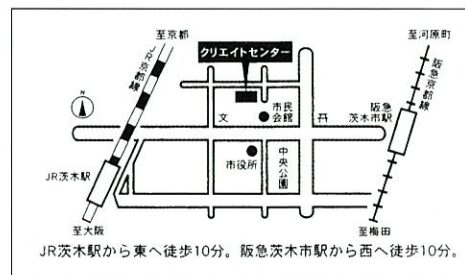
* 予約後は、1週間以内に財団窓口でご精算ください。

* 予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送料 290 円〉を郵便局備付けの「払込取扱票」でお振替ください。手数料はご負担願います。

〈振替口座〉00970-7-190576 / 加入者名: 財団法人茨木市文化振興財団

* 窓口販売と電話予約が競合する場合は窓口販売を優先しますので予めご了承ください。

* 茨木市文化振興財団は4月1日から茨木市市民会館へ移転します。



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩10分。

株式会社アートスタッフ

展示・イベント会場設営

舞台・式典装飾

代表取締役 南 誠 人

イベント・式典の企画・設営から運営まで
イベント（市民祭り・野だて茶席等）
展示会（美術展・写真展・絵画展等）
各種式典（竣工式・除幕式・講演会等）

パイプtent・紅白幕
テーブル・イス
展示パネル
各種看板・印刷物
MC・パフォーマー
舞台音響照明・電飾・ネオン
etc.

本社
〒567-0828 茨木市舟木町
TEL 072-634-8928 / FAX 072-636-5329
製作スタジオ
〒530-0007 大阪市北区松ヶ枝町
TEL 06-6356-3161 / FAX 06-6356-3162